

第1学年

おもしろいあそびがいっぱい

1年1組 32名

1. 単元名 「なつと なかよし」(大日本図書)

2. 単元目標

- ・栽培活動を通して、植物の成長に関心をもって働きかけることができ、植物が成長していることに気付き、最後まで大切に世話をしようとする。
- ・夏の自然を使った遊びを通して、自然や自分たちの生活の様子について考えることができ、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで楽しみながら遊びを創り出し、生活を楽しくしようとする。

3. 指導について

(1) 児童について

本学級の子どもたちは、どんなことにも前向きに取り組むことができる。特に遊ぶ活動では、意欲的に活動することができる。活動中は、一人で楽しそうに遊ぶ子どももいれば、友だちと声をかけ合って遊ぶ子どももいる。

生活科の時間を毎時間楽しみに待っている子どもが多く、いつも積極的に取り組むことができる。1学期の子どもたちは、登校すると毎日水やりをし、成長を楽しみにしていたあさがおが発芽、開花する経験をした。自分が責任をもって世話をしてきたことで花が咲き、喜ぶ姿が見られた。

また、しゃぼん玉遊びや水遊びを経験し、身近な材料を使って遊ぶ道具を作ったり、身の回りにあるものを使ったりして遊ぶ楽しさを感じることができた。ただ遊ぶだけでなく、「ゆっくり吹いたら大きなしゃぼん玉ができた。」「水をいっぱい入れたら遠くまで水をとばすことができた。」など、気付いたことを言葉で表現できた子どももいた。しかし、まだ友だちとの関わりがうまくもてず小さなことでトラブルになってしまう子や、自分の思いをうまく言葉にして伝えることができない子もいる。

(2) 単元について

本単元は、「はなとなかよし」「おもしろいあそびがいっぱい」「なつはたのしいことがいっぱい」の3つの小単元で構成されている。

「はなとなかよし」では、花が咲く様子を観察する活動を通して、植物の成長を感じるとともに、喜びを実感することができる。そのことから、自然との親しみを増し、大切にしようとする気持ちをさらに高めることができる。そして、自分自身の世話の仕方や世話をしてきた気持ちの変容などに気付くことをねらいとしている。また、育てた花を用いて友だちと一緒に色水遊びをする。この活動を通して、自分たちの生活を工夫して楽しむこと、生活を豊かにしていくことにつながる単元である。

「おもしろいあそびがいっぱい」では、身近な素材を工夫して遊び道具を作り、しゃぼん玉遊びや水遊び、舟遊びをする経験を通して、遊ぶ活動を十分に楽しむことができる。そして、友だちと一緒に関わりながら活動することによって、楽しさが増す経験をすることができる。

「なつはたのいいことがいっぱい」は、1年生にとって初めての夏休みに、家族と楽しい時間を過ごしたことや、友だちと一緒に遊んだことなどを思い出し、それぞれの子どもが経験したことを認め合う単元であり、意欲的に話をする姿が期待できる。

(3) 指導について

「はなとなかよし」では、花が咲いた喜びを子どもが十分に味わえるよう、教師は共感する言葉かけをし、子どもの言葉を肯定的に受け止める関わりを大切にする。一生懸命世話をしたことを教師が認め、褒めることで、これまで世話ができた自分自身の成長への気付きに導きたい。また、自分が世話をした花を使っていろいろと遊べることを知らせ、自分でも遊びたい、作ってみたいという意欲を高め、進んで取り組めるようにさせたい。遊び方自体は比較的簡単なため、その方法を提示し、友だちと協力し合って活動を進めていけるようにすることも大切にする。

「おもしろいあそびがいっぱい」では、楽しく遊ぶ活動を十分に経験させる。そのなかで、同じ遊びをしている子ども同士で協力し合って一緒に遊ぶことで、友だちとの違いに気付くこともできる。そして、工夫した遊びをしている子どもを紹介し、全体に広めていきたい。友だちの工夫を取り入れ、自分の遊びがさらに楽しくなる経験を通し、関わりがより深まっていく。こうして考え、表現し、気付くことによって、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。このように体験活動と表現活動を充実させることで、学びをより豊かなものにしていけると考える。また、しゃぼん玉遊びでは、道具や吹き方の違いでしゃぼん玉の数や大きさが変わること、しゃぼん玉自体のもつ色や形の美しさなど、自然の不思議さにも気付かせ、深い学びへと導きたい。舟遊びでは、舟の帆の形や大きさ、どのようにして進ませるかなど、いろいろ試しながら友だちと一緒に遊んだ後、遊びの中で気付いたことを発表し交流する活動により、気付きの質を高めていきたい。

「なつはたのいいことがいっぱい」では、夏休み中に家族と楽しい時間を過ごしたことや、友だちと一緒に遊んだことなどを思い出し、共有する。楽しかった夏を振り返りながら、次の季節を楽しみに待てるようにする。

単元全体を通して、大人から与えられたゲームやおもちゃだけでなく、身近な自然や身近な物を使って遊ぶ楽しさに気付き、どうすればもっと楽しく遊べるかを考えさせたい。創意工夫を重ね、自分で遊びを追究し、深めていくことの面白さや、試行錯誤を繰り返す面白さに、一人ひとりが気付ける活動にしたい。また、友だちとの関わりの中で、約束やルールが大切なことや、それらを守って遊ぶと楽しく遊べることに気付かせたい。さらに、自分の遊びと友だちの遊びを比べ、その違いを見つけたり、なかまの意見を聴き、自分の遊びに取り入れれたりすることで遊びが充実する経験を通し、相手の意見を尊重する態度も身に付けさせたい。そして、子どもたちが遊びを通してなかまとの関わりを広げ、深めていってほしい。

4. 単元の評価規準

単元の 評価規準		ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に 取り組む態度
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物を育てる活動を通して、植物は成長していることに気付いている。 ・ 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物を育てる活動を通して、植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。 ・ 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物を育てる活動を通して、植物への親しみを持ち、大切にしようとしている。 ・ 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。
小 単 元 に お け る 評 価 規 準	1	①植物が成長していることに気付いている。	①植物の成長に関心をもって働きかけ、成長の様子を振り返る表現をしている。	①自分が世話をしている植物に親しみや愛着を持ち、最後まで大切に世話をしようとしている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ②遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 ③身近な自然や物は、いろいろな遊びに利用できることに気付いている。 ④遊びの面白さや自然の不思議さに気付いている。 ⑤約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ②楽しみたい遊びを思い描きながら、遊びに使うものを選んでいく。 ③予想したり、確かめたり、見直したりしながら、遊びに使うものをつくっている。 ④比べたり、試したり、見立てたりしながら、遊びを楽しんでいる。 	②友だちのよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しもうとしている。
	3			③夏の自然遊びや行事に関心を持ち、生活を楽しくしようとしている。

5. 指導と評価の計画

次	時	○主な学習内容・学習活動 ・教師の支援	評価規準 評価方法
第1次 はなとなかよし	1	○あさがおの開花に喜びを感じ、記録をする。 ・がんばって世話を続けてきたことを認め、これからも続けて世話をしようとする意欲をもたせる。 ・世話の仕方を振り返らせ、気持ちの変容に気付かせる声かけをする。	アー① イー① ワークシート
	2 3	○あさがおの花を使って作った色水で絵を描いたり遊んだりする。 主体的な学び ・水を少量加えて花の汁を絞り出したり、水を多く入れて色を調整させたりする。 ・あさがおにさらに親しみや愛着をもち、最後まで大切に世話をしようとする意欲をもたせる。	ウー① 発言 行動観察
第2次 おもしろいあそびがいっぱい	4	○しゃぼん玉遊びに必要な道具の設計図を考えて、ワークシートに書く。 主体的・対話的な学び ・教科書に載っている遊び方を確認させたり、実物を見せたりして、自分の考えをもちやすくさせる。 ・自分なりに考えている子どものワークシートをテレビに映し、紹介し、説明させる。	イー② ワークシート
	5	○しゃぼん玉遊びの道具をつくる。 主体的な学び ・友だちの考えを参考にしながら、身近にあるものから材料を選び、つくらせる。	
	6 7	○みんなでしゃぼん玉遊びをする。 主体的・対話的で深い学び ・みんなで協力して楽しく遊べるように声かけをする。 ・子どものつぶやきを全体に広げ、遊びの幅を広げる。 ○あのね帳に書く。 ・しゃぼん玉遊びで経験したこと、気付いたこと、思ったことなどを、文や絵で表現させる。	イー④ 発言 行動観察
	8 9	○身近な材料を使って水遊びをする。 主体的・対話的で深い学び ・みんなで楽しく遊べるように声かけをする。 ○ワークシートに書く。 ・水遊びで経験したこと、気付いたこと、思ったことなどを、文や絵で表現させる。	アー② アー⑤ 発言 行動観察 ワークシート

	10	<p>○身近にある葉を使って舟をつくり、浮かべて遊ぶ。</p> <p>主体的・対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なものが遊び道具になることに気付き、ほかのものでもつくれないか考えるきっかけになるようにする。 	<p>アー③</p> <p>発言</p> <p>行動観察</p>
	11	<p>○身近な素材を使って舟をつくる。</p> <p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えを参考にしながら、身近にあるものから材料を選び、つくらせる。 ・自分なりに考えてつくった子どもの舟をテレビに映し、紹介させる。 	<p>イー③</p> <p>発言</p> <p>行動観察</p>
	12 ※ 本 時	<p>○みんなで舟を浮かべて遊ぶ。</p> <p>主体的・対話的で深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に遊んだ後に、困っていることや気付いたことなどを共有する時間を設ける。 	<p>アー④</p> <p>行動観察</p> <p>発言</p>
	13	<p>○前時の課題を活かして、もう一度遊ぶ。</p> <p>○ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舟遊びで経験したこと、気付いたこと、思ったことなどを、文や絵で表現させる。 	<p>ウー②</p> <p>ワークシート</p>
第3次 なつはたのしいことがいっぱい	14	<p>○夏休み中に家族と楽しい時間を過ごしたことや、友だちと一緒に遊んだことなどを思い出し、みんなで共有する。</p> <p>主体的・対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に家族や友だちとふれ合って絆を深めたり、地域や公共施設の行事に参加して楽しんだりしたことを思い出し、楽しかった夏を振り返りながら、次の季節を楽しみに待てるよう声かけをする。 	<p>ウー③</p> <p>発言</p>

6. 本時

(1) 本時の目標

つくった舟で遊び、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことができる。

(2) 本時の展開

学習活動・学習内容	○指導上の留意点(支援)、手立て	評価規準 評価方法 ●準備物
1. 本時のめあてを確認する。	○どんな遊びがしたいか尋ね、より意欲的に取り組めるようにする。	
ふねであそぼう。		
2. 前時につくった舟を浮かべて遊ぶ。 4つのグループに分かれて遊びを楽しむ。	○浮かべるだけでなく、競争したり、修理をしたりしながら、たくさん遊べるようにする。 ○友だちとの違いに気付いたり、協力したりしながら遊べるように促す。 ○子どものつぶやきを拾い、吹き出しに記入しておく。	●水槽 ●シート ●雑巾 ●修理コーナー ●吹き出しカード
3. 「おはなしタイム」 ペアになり、どのような舟をつくったか、どのような遊びをしたか、うまくいったこと、うまくいかなかったことなどを話す。	○吹き出しカードを提示することで、遊んでいる時のことを振り返りながら話せるようにする。	
4. 「はっぴょうタイム」 ペアで話したこと、遊びのなかで気付いたことを発表する。	○困ったことがあれば発表させ、解決法がないかみんなで考えさせる。 ○友だちと一緒に発見したことや、自分で発見したことを発表できるようにする。	アー④ ●テレビ ●書画カメラ 発言
5. 学習の振り返りをする。	○子どもたちの気付きから次時への課題を見つけ、意欲につなげる。	